

北海道旅行 4. ペンギンが空を飛ぶ

弟子屈の硫黄泉の川湯温泉でのんびり体を伸ばし、翌朝再び屈斜路湖を眺望できる美幌峠で眼下に壮大な湖の姿を目に収め、一路層雲峡を目指しました。北見市を通る道は、最高のお景観でした。街路樹は白樺です。ほっそり、しなやかな美人の風情で、沿道に何キロも続いていました。それが途切れると、黄色のマリーゴールド、赤のサルビア、紫のラヴェンダーなど、道行く人を喜ばせるさまざまな花の植栽が続きました。しかも道はまっすぐ！こんなドライブ、どこにあるかしら？



流星の滝(男滝)

やがて山道に入ると、やはり、エゾシカの飛び出しを注意しながら、原生林の中の道を進んで行きました。長いトンネルを何個か過ぎて、すぐに、層雲峡の観光スポット、流星の滝、銀河の滝がありました。ここは石狩川の源流になる大渓谷です。柱状の巨大な岩が500mの高さで連なって、圧するように林立しています。その岩の隙間から水が流れ、力強い太い流れの流星と、途中から腰を曲げて幅を広げる銀河の滝が、石狩川に流れ込んでいるのです。二つ似ているものが並んでいれば、雌雄にするというのは、日本的なのでしょう。



銀河の滝(女滝)

さて、ドライブは快調。というか、層雲峡は旭川のテリトリーのように、午後早く、旭山動物園に着きました。なだらかな丘の中にありました。掲示板の「もぐもぐタイム」の案内を書き留めて、周り始めました。大好きなキリンを最初に見ました。キリンの舌は長くて、餌の草木を巻き付けて、一飲みしますが、上の歯はなく、下の歯と歯茎で噛み砕き、牛のように反芻すると説明しながら、飼育員が手ずから餌を私たちの目の前で与えました。キリンの口をあれほど真近かで見たのは初めてでした。歓声を上げてみんなで楽しみました。カバはもちろん必見、必須項目でしたが、おとなしくしていました。隣にダチョウがいて、何やら気が立っているようなので、からかいたくなりました。目の前で私が手を伸ばして腰をまげて、ダンスのポーズをとると、すぐにダチョウは真似ました。金網越しに二人(?)でしばらくダンスの掛け合いを楽しみました。アザラシのもぐもぐタイム、チンパンジーのもぐもぐタイムなど見ましたが、動物の「餌が命」の姿には哀しいものがあります。餌で支配されて、従順に。餌がなくなると見向きもしない。



北極熊、アザラシ、ペンギンが、水の中で動き回っている姿を水槽の下や横から見る事ができました。なめらかに、自在に動き回る姿は迫力があって、見ごたえがあります。また、自然で、可愛らしいと感じます。北極熊は、戦後間もない頃、私が小学校入学前に、上野動物園で見た最初の猛獣でした。そのころ上野動物園にはほとんど動物がいなかった気がします。その日のお弁当は、日の丸弁当で、お米のご飯は特別のご馳走でした。動物の餌どころか、人間の食べ物さえなかった時代でした。

今、動物たちは、自然に近い環境を与えられ、たっぷり飼育されているようです。猛獣たちもジャングルに寝そべっているかのようです。中でも、オオカミが岩山で群れている姿は圧巻でした。私の最初の飼い犬がシェパードの雑種だったことと、グリム童話では必須の動物ですから、オオカミには懐かしさをつい感じてしまいます。イエローストーン国立公園ではオオカミを駆除したら、生態系が崩れ、弱小草食動物が絶滅しかけたため、再び導入し、自然を取り戻したと聞いています。動物の世界は弱肉強食でも、生態系を守る秩序も必要なのでしょう。